

# PCi- USERS MANUAL

USB 56K FAX/MODEM

**UMD-56J**

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

## このマニュアルの構成

本マニュアルは以下のような構成になっております。

### 必ずお読み下さい

#### 第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。



### ご使用方法

#### 第2章 Windows98 へのインストール

本製品のWindows98 へのインストール手順を説明します。

#### 第3章 実際に使用する

本製品を使用してインターネットサービスプロバイダに接続する場合の実際の使用方法について説明します。

#### 第4章 モデムコマンドリファレンス

モデムコマンドについて説明します。

### 付録

#### 付録A トラブルシューティング

「トラブルかな?」と思われる場合の対応方法について説明します。

#### 付録B 仕様

本製品の仕様について説明します。

#### 付録C AT コマンド一覧

本章ではモデムのAT コマンド、Sレジスタについて説明します。

#### 付録D リザルトコード一覧

本章ではモデムのリザルトコードについて説明します。

《マニュアル内の表記について》  
本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。  
区別が必要な場合は製品型番で表記します。

User's Manual Ver.1.0 Rev.A

## 目次

### 第1章 はじめに

1-1	USB 概要	1
2	製品概要	3
3	特長	4
4	梱包内容の確認	5
5	各部の名称	6

### 第2章 Windows98 へのインストール

2-1	ドライバのインストール	8
2	インストールの確認	13
3	本製品の取り外しとドライバの削除	16

### 第3章 実際に使用する

3-1	ダイヤルアップの設定	18
2	回線の切断	27

### 第4章 モデムコマンドリファレンス

4-1	AT コマンドリファレンス	28
2	AT コマンドの使用方法	29
3	例外(特殊)コマンド	30
4	S レジスタについて	31

付録A	トラブルシューティング	32
-----	-------------	----

付録B	仕様	39
-----	----	----

付録C	コマンド一覧	40
-----	--------	----

付録D	リザルトコード一覧	59
-----	-----------	----

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

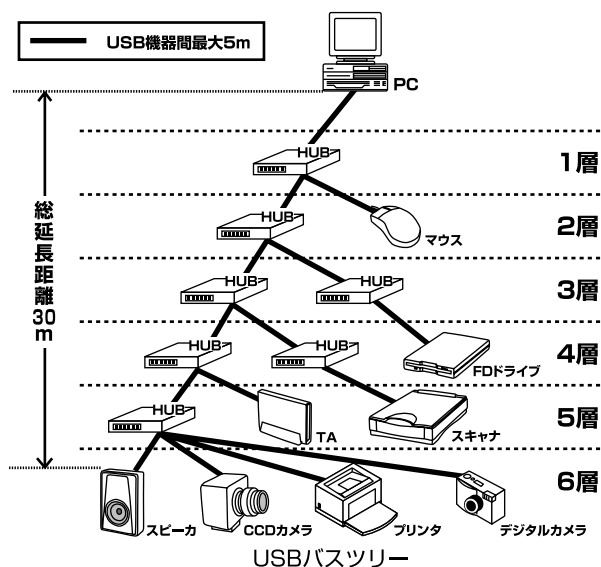
## 第1章 はじめに

### 第1章

#### 1-1 USB 概要

USB(ユニバーサルシリアルバス)は、マイクロソフト、インテル、IBM、コンパック、DEC、ノーザンテレコム、日本電気の7社が中心となって1995年に公開されたコンピュータと低中速機器を接続するのに適した汎用シリアルインターフェイス規格です。

USBの接続形態は、一台のホストコンピュータを頂点としたツリー状で、USBハブを介して最大127台までの機器を接続できます。一つのUSBバスツリーの中でUSBハブは5段まで接続でき、末端の機器まで含めた階層は最大6階層になります。ホストコンピュータから末端のデバイスまでの最大ケーブル総延長距離は30m、それぞれの機器間(ハブを含む)の距離は最大5mです。



転送速度はロースピードモード(1.5Mbps)とハイスピードモード(12Mbps)の二種類をサポートしています。どのスピードを使用するかは、それぞれの機器が接続時にホスト側に伝えるようになっていて、ホストは新しい機器が接続されるたびにどの機器にどれくらいの間隔でデータの送受信を行うかのスケジュールを決定します。これによりUSBバスツリーに接続されている全ての機器が公平にデータの送受信を行う事ができるようになります。全てのUSB機器は、コンピュータの動作中にケーブルの抜き差しができるホットスワップ機能と、接続後パソコンを再起動せずに使用する事が可能なプラグアンドプレイの機能を備えているので使用したい機器を使用したい時に接続して利用する事ができます。

USB機器には、接続ミスを防止する為にダウストリームポート(タイプBコネクタ)とアップストリームポート(タイプAコネクタ)と呼ばれる、二種類の形状の異なるポート(コネクタ)があります。USB機器を接続する際は、ダウストリームポートとアップストリームポートを接続します。ポートの形状さええばどのポートにも接続する事が可能ですが一つのバスツリーの中で接続がループしてしまったり、ホストコンピュータ以外に他のコンピュータを接続する事はできません。

USB機器への電源の供給方法には、従来の周辺機器のようにACアダプタなどから電源を取り込む「セルフ電源方式」と、必要とする電源をUSBケーブルの電源線から取り込む「バス電源方式」があります。このバス電源方式によりマウスやキーボードなどの消費電力の少ないUSB機器は、動作に必要な電源を直接USBケーブルから取り込む事ができます。バス電源方式はさらに、100mA以下の低消費電力機器と100～500mAの高消費電力機器に分けられます。バス電源方式ではACアダプタが不要なため、簡潔に配線を行う事ができますがご使用になるUSB機器が高消費電力の場合、接続先のポートに必要な電力が供給されているかの注意が必要です。

従来のインターフェイスでは、キーボード、マウス、シリアルポート、プリンタポートなどのそれぞれの機器ごとにコンピュータのリソースを使用していましたが、USBを使用した場合は、127台ま

### 第1章

での機器を接続してもコンピュータのリソースは、一つしか使用されません。また、既存の周辺機器をUSBに対応させる事で形状の違うコネクタに仕様の異なるケーブルを何本も用意する必要もありません。

このようにUSBは、従来のさまざまな機器を接続する事ができるだけで無く、コスト、使い易さ、コンピュータのリソースの面からもメリットがある新しいインターフェイスです。

## 1-2 製品概要

本製品はV.90およびK56flex規格に対応した、コンパクトサイズのUSB 56K FAX/モデムです。同規格に対応したプロバイダとの接続時に最大56,000bpsで受信を行うことが可能です(送信の最大速度は33,600bpsです)。

本製品はベル通信規格、ITU-T(前CCITT)規格およびヘイズATコマンドとすべて互換性を保っているため、現在使用されている主要通信ソフトウェアでお使いいただけます。G3互換のFAX機とFAXの送受信が行えるほか、FAX/モデムのデータ通信機能を使って以下のような用途で使用できます。

- ・インターネットとの接続
- ・電子メールの送受信
- ・パソコン通信

本製品はFAXまたはデータモデムとして使用できます。相手側のFAX/モデムと接続すると、相手側のFAX/モデムで処理できる最高通信速度を自動的に検出します。本製品は、ほぼすべての主要FAX/モデム通信ソフトウェアで使用することができます。

## ⚠ 注意

V.90/K56flexの56,000bpsは理論上の最高通信速度です。実際の通信速度は回線の品質等の影響でこれより遅くなります。また、V.90/K56flexによる通信は同規格に対応したアクセスポイントとの通信時のみ有効です。V.90/K56flexモデム同士での通信の最高速度は33,600bpsとなります。

## 1-3 特長

- ・ USB spec. 1.0に対応しています。
- ・ USBバス電源を使用するため、ACアダプターが不要です。
- ・ 一般的なシリアルモデムと同様の操作性を提供します。
- ・ プラグアンドプレイ機能に完全互換しています。
- ・ V.90およびK56flex規格に対応、最高56,000bpsでの受信が可能です。
- ・ 1台でFAXおよびMODEM両方に使用できます
- ・ 信頼性の高いハードウェアモデムです。
- ・ 簡単なインストールでご使用になれます。
- ・ MNP5、V.42bisに準拠したデータ圧縮機能を搭載しています。
- ・ 主要FAXモデム通信プログラムに対応しています。
- ・ 通信状況を示す3つのLEDインディケータを装備。

### 1 USBの電源について

全てのUSBデバイスは、「セルフ電源」もしくは、「バス電源」の何れかの方法で動作に必要な電源を取り込みます。ACアダプタなどを接続して動作に必要な電源を取り込む方法を「セルフ電源」といい、USBケーブルの電源ラインから動作に必要な電源を直接取り込む方法を「バス電源」といいます。本製品は、バス電源を使用しているため、ACアダプターが不要な省電力設計になっています。

**1-4 梱包内容の確認**

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確認してください。

- ・ UMD-56J USB 56K FAX/モデム × 1
- ・ RJ-11 モジュラケーブル × 1
- ・ USB ケーブル(1m) × 1
- ・ RJ-11 分岐コネクタ × 1
- ・ ドライブディスク × 1
- ・ このユーザズマニュアル

不足品がある場合は、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

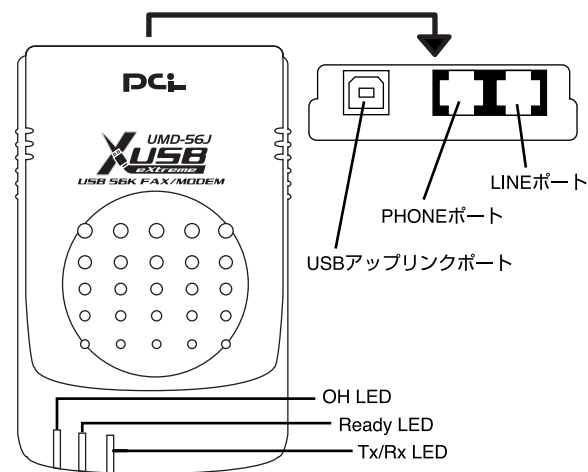
**1-5 各部の名称**

図 1-1 UMD-56J

USB アップリンクポート：コンピュータまたは、USB ハブのダウンストリームポートとUSB ケーブルで接続します。

PHONE ポート：電話回線を電話機を共有する場合に電話機を接続するためのRJ-11 モジュラコネクタです。

LINE ポート：電話回線を接続するためのRJ-11 モジュラコネクタです。

OH LED：電話回線と接続されている場合(受話器が上がっている状態)に点灯します。

Ready LED：モデムが送受信可能な時に点灯します。

Tx/Rx LED：データの送受信時に点灯します。

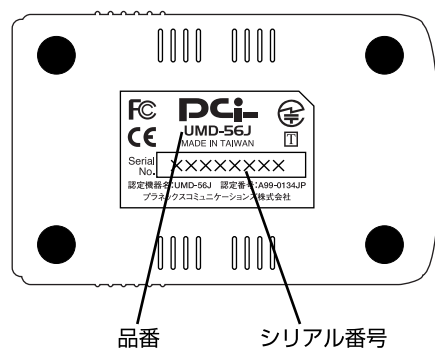


図 1-2 本体裏面

品番：本製品の製品型番です。

シリアル番号：本製品のシリアル番号です。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受ける場合にも必要になります。

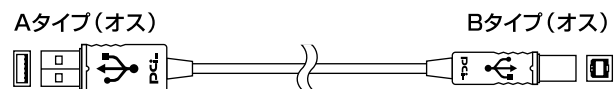


図 1-3 USBケーブル

本章では、本製品のコンピュータへの接続方法およびドライバのインストール方法について説明します。

## 2-1 ドライバのインストール

本製品付属のドライバディスクを用意してください。

1. 本製品のUSB アップストリームポート(タイプBコネクタ)に付属のUSBケーブルを接続してください。
2. 本製品に接続したUSBケーブルの他方をパソコンまたは、USBハブのダウンストリームポートに接続してください。

### ⚠ 注意

本製品をUSBハブに接続する場合は、必ずUSBハブがセルフ電源で動作している事をご確認ください。

3. 本製品をコンピュータに接続した時点でシステムに自動的に認識されハードウェアウィザードが起動します。「新しいハードウェア」ウィンドウが表示されるので、ここで「使用中のドライブに最適なドライブを選択する」ラジオボタンをチェックして[次へ]ボタンをクリックしてください。



4. ファイルのコピー元を入力する画面が表示されます。本製品に付属のドライバディスクをフロッピードライブに入れてください。「検索場所の指定」チェックボックスをチェックして a:¥ (フロッピードライブが A ドライブの場合) と入力して[次へ]ボタンをクリックしてください。



5. ドライバファイルが見つかり、「UMD-56J USB FAX/モデム」と表示されたら[次へ]ボタンをクリックしてください。



6. インストール完了のメッセージが表示されたら[完了]ボタンをクリックしてください。



7. 続いてモデムドライバを追加するための「新しいハードウェア」ウィンドウが表示されます。「使用中のドライバに最適なドライバを選択する」ラジオボタンをチェックして[次へ]ボタンをクリックしてください。



8. ファイルのコピー元を入力する画面が表示されます。本製品に付属のドライバディスクをフロッピードライブに挿入されている事を確認後、「検索場所の指定」チェックボックスをチェックして a:¥ (フロッピードライブが A ドライブの場合) と入力し[次へ]ボタンをクリックしてください。



9. ドライバファイルが見つかり、「UMD-56J」と表示されたら[次へ]ボタンをクリックしてください。





10. インストール完了のメッセージが表示されたら[完了]ボタンをクリックしてください。



これで本製品のインストールは、完了です。

## 2-2 インストールの確認

ドライバのインストールが終了したら以下の手順でインストールが正常に終了したかを確認してください。確認する項目は、二つあります。

- 1.[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、そこから[コントロールパネル]をダブルクリックしてください。
- 2.[システム]アイコンをダブルクリックしてください。「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されるので、[デバイスマネージャ]タブをクリックしてください。

3. コンピュータアイコンのすぐ下に「Auxiliary-Drivers」デバイスカテゴリが新しく作成されています。アイコンの左の[+]マークをクリックして「UMD-56J」が表示されるか確認してください。



4. モデムアイコンの左の[+]マークをクリックしてモデムアイコンの下に「UMD-56J」が表示されているか確認してください。それぞれのアイコンが表示されない、またはアイコンに「？」や「！」のマークが表示される場合はドライバのインストールが正常に終了していません。2-3 の手順でドライバを一旦削除してから 2-1 の手順で再度インストールを実行してください。



## 2-3 本製品の取り外しとドライバの削除

本製品に接続されているUSBケーブルを取り外してください。システムから自動的に消去されます。この状態で、本製品を再度パソコンに接続した場合は、自動的に必要なドライバがシステムに組み込まれるのでドライバディスクからドライバのインストールを行う必要はありません。

本製品のドライバをシステムから完全に削除するには、下記の手順を実行してください。

1. 本製品に接続されているUSBケーブルを取り外してください。
2. 本製品に付属のドライバディスクをコンピュータのフロッピードライブに挿入してください。
3. [スタート]メニューをクリックして「ファイル名を指定して実行」を選択します。a:¥UNINSTALL.EXE と入力して[OK]ボタンをクリックしてください。



4. 以下の確認のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックして続行してください。



5. ドライバの削除が完了するとコンピュータが再起動します。

再度、本製品をコンピュータまたはUSBハブに接続した場合は、2-1の手順に従って再インストールを行ってください。

## 第3章

### 実際に使用する

本章では、インターネットサービスプロバイダへの接続を例に、本製品を使用したダイヤルアップ接続を手動でWindows98に追加設定する方法を説明します。インターネットウィザードまたはその他の方法でのセットアップについては、Windows98のマニュアルをご参照ください。また予め、ご契約されているインターネットサービスプロバイダから加入時に送付されたユーザ設定情報をご用意ください。設定を行うには本製品とコンピュータのUSBポートまたは、USBハブがUSBケーブルで接続されていて必要なドライバ類が正しくインストールされている必要があります。

### 3-1 ダイヤルアップの設定

1. 付属のモジュラケーブルをモジュラジャックに接続して他方を本製品のLineポートモジュラコネクタに接続してください。本製品の電源は、USBケーブルを介してコンピュータまたは、USBハブから供給されます。

ノート：モジュラコネクタが一つしか無かつ電話機を接続したい場合は、以下のいずれかの方法でご使用される環境に合わせた接続を行ってください。

本製品に付属の RJ-11 分岐コネクタをモジュラジャックに接続して本製品と電話機の両方を接続する。

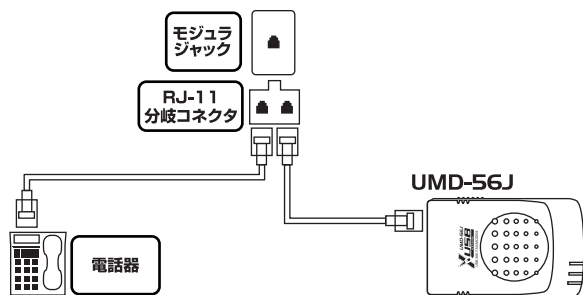


図 3-1 分岐コネクタを使用する場合

モジュラコネクタに接続されている本製品の Phone ポートと電話機を RJ-11 モジュラケーブルで接続する(この場合本製品に電源が供給されていないでも通話は可能です)。

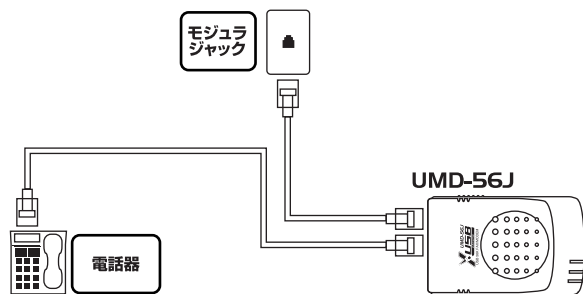


図 3-2 本製品の Phone ポートを使用する場合

2. デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして表示されるウィンドウから「ダイヤルアップネットワーク」フォルダをダブルクリックしてください。



3. 「新しい接続」アイコンをダブルクリックして「新しい接続」ウィンドウを表示してください。「接続名」に適当な名前(Windows上で登録される名前なのでどのような名前でもかまいません)を入力してください。「モデムの選択」では、一覧から UMD-56J を選択してください。「次へ」ボタンをクリックします。



4. 「市外局番」と「電話番号」の欄にご契約されているインターネットサービスプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力してください。「国番号」の欄が「日本(81)」になっている事を確認して「次へ」ボタンをクリックしてください。

アクセスポイントの電話番号は、プロバイダから配布されたユーザ登録情報を参照してください。



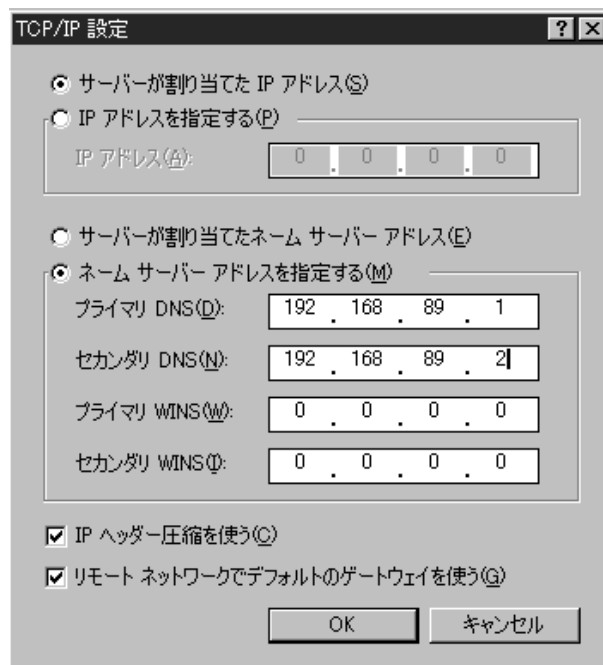
5. 手順3で入力された名前が表示されている事を確認して「完了」ボタンをクリックしてください。

6.登録されているアイコンを右クリックして表示されるメニューからプロパティを選択します。表示されるプロパティの「サーバの種類」タブをクリックして「使用できるネットワークプロトコル」の欄で「NetBEUI」「IPX/SPX 互換」チェックボックスのチェックを外して下さい。



7.「使用できるネットワークプロトコル」の欄にある「TCP/IP 設定」ボタンをクリックします。表示される「TCP/IP」設定ウィンドウの「ネームサーバアドレス指定する」ラジオボタンをチェックして「プライマリ DNS」「セカンダリ DNS」の欄に IP アドレスを入力して下さい。  
「OK」ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。

ネームサーバアドレスは、プロバイダから配布されたユーザ登録情報を参照してください。



8.登録された名前のついたアイコンをダブルクリックしてください。



9.「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックしてください。「ダイヤルのプロパティウィンドウ」が表示されたら必要な情報を入力してください。  
「ダイヤル方法」ラジオボタンで必ずご使用になれる回線のタイプを指定してください。

トーン：プッシュホン回線

パルス：ダイヤル回線

入力が終了したら「OK」ボタンをクリックしてください。



10.「ユーザー名」の欄にユーザIDを「パスワード」の欄にパスワードを入力して「接続」ボタンをクリックしてください。

ユーザIDとパスワードは、プロバイダから配布されたユーザ登録情報を参照してください。

11. 接続の状態を表すダイアログが表示され「接続中」「ユーザ名とパスワードを確認中」と表示された後、接続が確立します。接続確立後タスクバーのタスクトレイに時刻表示と並んで接続の状態を示すアイコンが表示されます。



12. ご使用になられるブラウザを起動してください。インターネットを参照する事が出来ます。

新しく設定したダイヤルアップ接続をブラウザの標準設定で登録すればブラウザを起動するだけで登録したダイヤルアップ接続が開始されます。ブラウザの標準設定に関しては、マニュアルを参照してください。

### 3-2 回線の切断

接続を切断するには、タスクバーのタスクトレイに時刻表示と並んで接続の状態を示すアイコンをダブルクリックして表示されるダイアログの「切断」ボタンをクリックするかブラウザから回線の切断を選択してください。ご使用になられるブラウザによって切断項目の設定または名称は異なります。マニュアルを参照してください。



## 第4章

### モデムコマンドリファレンス

本章ではモデムの AT コマンド、S レジスタについて説明します。

#### 4-1 AT コマンドリファレンス

モデムの動作制御およびソフトウェアの設定を行うには、モデムに対し「AT コマンド」という命令文を使います。AT コマンドは、モデムがコマンドモードになっている時のみ入力可能となっています。AT コマンドの入力は以下のフォーマットで行います。

ATxn (最後に[Enter]キーを押す)

上記の「x」には各 AT コマンドが入ります。また「n」には、そのコマンド用のパラメータを入力します。

コマンドが入力されると、そのコマンドに対する応答(「リザルトコード」)がテキストもしくは数字で表示されます。付録 C「リザルトコード・オプション表」ではすべてのリザルトコードを挙げています。入力された AT コマンドまたはコマンド値がモデム側で受け入れられると、[OK]と表示されます。逆にコマンドがモデム側で受け付けられない場合は、[Error]リザルトコードが表示されます。

使用するアプリケーションによっては、UMD-56J USB FAX / モデムに特殊なパラメータ設定を行う必要があります。このような場合を想定し、本章では、AT コマンドの使用方法を説明します。各 AT コマンドの詳しい定義については付録 C を参照してください。



## 4-2 ATコマンドの使用方法

大抵の場合、ご使用のFAX/データ通信ソフトウェアは自動的にモデムの制御を行います。しかし場合によっては直接ATコマンドを使う必要があります。ATコマンドを使うことにより、モデムを完全に制御することができます。ただし使い方によってはソフトウェア側からモデムの制御が行えなくなってしまう場合もありますので、ATコマンドの使用は慎重に行ってください。ATコマンドを使用した結果UMD-56J USB FAX/モデムが正常に動作しなくなった場合は、コンピュータの電源を切って再度入れ直してください。これで、ほぼすべてのATコマンドの設定を工場出荷時のデフォルト状態に戻すことができます。

ATコマンドを使用するには、以下の操作を行ってください。

1. お手持ちの通信ソフトウェアを起動します。
2. 必要に応じて、ソフトウェアのCOMポートおよびIRQの設定を行ってください。
3. ターミナルモード(コマンドモード、ローカルモード、ダイレクトモードとも呼びます)を開始してください。通常、これは通信ソフトウェアの起動時のモードとなっています。次に、使用するATコマンドを入力し[Enter]キーを押してください。

例：ATH0 <Enter> (モデム接続を切断)  
AT&K3 <Enter> (双方向CTS/RTSハードウェアフローコントロールを有効にする)

また大抵の場合、同一コマンドライン上に複数のATコマンドが入力できるようになっています。

例：AT&K3H0 <Enter>

上記の例にもあるとおり、各コマンド(AT、&K3、H0)間に空白を入れる必要はありません。

モデムは、コマンドを認識するとそのコマンドへのレスポンスを次の行に表示します。レスポンスは通常OKかErrorのいずれかが表示されます。場合によっては追加でメッセージが表示されることがあります。

モデムのメモリにATコマンドを保存する場合は、そのコマンドの最後に「&W」と追加してください。(この詳細については&Wコマンドをご参照ください。) &Wと追加しない場合、そのコマンドの設定はコンピュータの電源を切ると失われます。また「Zn」コマンドを使用すると、設定内容は毎回モデムを起動する時に自動的にロードされます。

モデムの設定を工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、「AT&F&WZ」と入力してください。

現在有効になっている設定を参照するには、「AT&V」コマンドを実行してください。

## 4-3 例外(特殊)コマンド

以下のコマンドを使用する場合は、「AT」の後に入力したり、入力後[Enter]キーを押したりしないでください。

+++ エスケープシーケンス

エスケープシーケンスを入力すると、モデムのデータモードを終了し、オンラインコマンドモードに入ります。オンラインコマンドモードでは、ATコマンドを使って直接モデムと通信を行うことができます。またデータモードに戻るには「ATO」コマンドを使用します。

エスケープシーケンスを使用する場合は1回使用すること、必ず「ポーズ」を実行してください。ポーズとは、エスケープ・ガードタイム(S12)で設定されている時間を指します。ポーズを実行すると、モデムがエスケープシーケンスをデータとして認識するのを防ぐことができます。エスケープシーケンス・キャラクタの値は、レジスタS2を使って変更することができます。

A/ 直前に実行されたコマンドを実行する

このコマンドを実行すると、直前に入力されたコマンドを繰り返し実行します。

#### 第4章

### 4-4 Sレジスタについて

Sレジスタは、ATコマンドの実行効果に影響を与えます。レジスタ内容の表示と変更は、モデムがコマンドモードのときのみ実行できます。

Sレジスタの値を表示するには、以下の操作を行ってください。

1. ATSn?と入力 (nはレジスタ番号)
2. Enterキーを押す

Sレジスタの値を変更するには、以下の操作を行ってください。

1. ATSn=rと入力 (nはレジスタ番号、rは新しいレジスタの値)
2. Enterキーを押す

## 付録A

### トラブルシューティング

本章では、トラブルシューティング情報をUSBとFAX/モデムに分けて分けて説明します。本製品が正常に動作しない場合は現象がこれらの情報に該当するかどうか確認してください。本章内で見つからない場合は、弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

#### USB

USBケーブルが完全に奥まで差し込まれていますか？  
確実に奥まで差し込んでください。

本製品に付属のUSBケーブルを使用していますか？  
本製品に付属のUSBケーブルを使用するか弊社純正USBケーブルをご使用ください。

本製品または、周辺機器の動作中(インストール中を含む)にUSBケーブルを抜き差ししていませんか？

USBは、ホットスワップに対応していますが周辺機器のインストール中、および動作中にケーブルの抜き差しを行う事はできません。必ず取り外したい周辺機器が動作していない事を確認してからケーブルを取り外してください。

ケーブルの瞬間的な抜き差しを行っていませんか？  
USBケーブルの瞬間的な抜き差しは、機器が正常に動作しなくなるなどの問題を起こします。

#### 付録A

**FAX/モデム**

モデムがATコマンドに反応しない。

モデム用に設定したCOMポートが、コンピュータ内の他のデバイスで既に使用されていないか確認してください。すでに使用されている場合は本製品で使いたいCOMポートを、他のデバイスが使用していないポートに変更してください(COM3またはCOM4に変更したほうがよい場合があります)。モデムのCOMポートにセットされているシリアルポートを実際に使用していなくても、モデムに影響が出る場合があります。ソフトウェアのCOMポート設定を必ず更新してください。

モデムがコマンドラインを実行しない。

コマンドラインの最初に「AT」と入力していますか。コマンドラインの先頭には必ずATと入力してください。  
モデムがデータモードになっている可能性があります。「+++」と入力し、モデムをコマンドモードに変更してください。  
ソフトウェア上で設定したCOMポートとモデムに設定されているポートが同じになっているか確認してください。違う場合はモデム、ソフトウェアの両方で同じCOMポートを指定してください。

ATコマンドを実行しても、モデムがレスポンスを表示しない。

エコーまたはレスポンスがATE0Q1コマンドにより無効になっている可能性があります。AT&Vコマンドを使ってこの点を確認してください。無効になっている場合はATE1Q0コマンドを使い、エコー/レスポンスを有効にしてください。  
モデムがデータモードになっている可能性があります。「+++」と入力し、モデムをコマンドモードに変更してください。

ATコマンド実行後、ERRORレスポンスが表示される。

コマンドが正しく入力されているか、またコマンドラインの長さが40文字以下になっていることを確認してください。

モデムが着信動作を行い、電話回線が使用できなくなる。

モデムが自動着信に設定されている可能性があります。  
ATS0=0と入力し、自動着信を無効にしてください。

かかってくる電話をモデムが自動着信できない。

ソフトウェア上で自動着信しないよう設定されている可能性があります。ATS0=n(nは呼び出し回数)と入力し、自動着信モードにセットしてください。例えば、ATS0=3と入力するとモデムは3回目の呼び出し音でコールを受信します。

ソフトウェアからモデムが正しく制御できない、またはモデムが検出できない。

ソフトウェアが正しくセットアップされているかどうか確認してください。また初期化ストリングとダイヤルストリングが正しいかどうか確認してください。  
常駐プログラムのいくつかは通信ソフトウェアとコンフリクトを起こしている可能性があります。すべての常駐プログラムを終了させてから通信ソフトウェアを起動してください。

画面上の文字が二重に表示される。

モデムとソフトウェアの両方でエコーが有効になっている可能性があります。ソフトウェア側のエコー機能を無効にしてください。エコー機能は、モデムとソフトウェアのいずれか片方のみで有効にする必要があります。  
こちらで入力した文字をリモートモデムがエコーしている可能性があります。ATE1と入力してください。次にソフトウェア側のエコー機能を無効にしてください。

データモード使用時、画面に何も文字が表示されない。  
こちらで入力した文字をリモートモデムがエコーしていない可能性があります。ATE0 と入力してください。次に、ソフトウェア側のエコー機能を有効にしてください。  
ソフトウェアがリモートモデム、またはその両方が全二重に設定されていない可能性があります。リモートモデム側で、こちらからの入力待ち状態となっている(返信するにはこちらからの入力が必要)。

コマンドモード使用時、画面に何も文字が表示されない。  
ATE1 と入力してください。

ダイヤル用の AT コマンドを実行しても、モデムが電話番号をダイヤルしない。  
パルスダイヤル用の電話回線に対し、トーンダイヤルを行っている可能性があります。ATDT##### コマンドのかわりに、ATDP##### コマンドを使用してください。

通信ソフトウェアからモデムを使ってダイヤルしても、モデムが反応しない。  
ご使用の通信ソフトウェア上で、コマンド「ATDT」が正しく入力されているかどうか確認してください。  
モデムとソフトウェアの両方が同じ COM ポートを使用していることを確認してください。  
最後に着信したコールをモデムが切断していない可能性があります。コマンドモードに移り、ATH と入力してください。

特定のモデムとしか接続できない。  
相手側のモデムが、データ圧縮やデータ訂正機能に対応していない可能性があります。この場合、接続のネゴシエーションに時間がかかります。AT&Qn、ATNn および ATS37=n コマンドを使って、モデムのネゴシエート方法を変更してみてください。また、AT&Q0N1 でコマンドを開始したほうが良い場合があります。

相手側のモデムにダイヤルしても、[CONNECT] レスポンスしか届かない。  
相手側のモデムが、こちらからのコマンド入力待ちになっている可能性があります。

相手側のモデムと接続中、PC 本体のスピーカから何も音が聞こえない。  
ソフトウェア側でスピーカをオフに設定している可能性があります。ソフトウェア上で設定を変更するか、ATMn コマンドでスピーカをオンにしてください。

モデム使用中、接続が切断される(安定しない)。  
相手側のモデムがハングアップしている可能性があります。相手側のモデムの状態を確認してください。  
電話回線が切断されている可能性があります。電話会社に確認してください。  
モデムに送られる DTR 信号をソフトウェアが止めている可能性があります。

相手側モデムと接続できない。  
相手側モデムからの高ピッチの接続音が聞こえない場合は、相手側モデムが正常に動作していない可能性があります。

時折、モデムから大量のエラー・レスポンスが発生する。

電話回線の状態が悪い(ノイズが多いなど)可能性があります。いったんその接続を終了し、もう一度モデムから接続し直してください。

電話回線を他の電話と共有している場合、電話を使用している間モデムは使用できません。電話とモデムを使う時間帯を分けてください。

使用中の電話回線でキャッチホンが使われている可能性があります。電話会社に連絡し、この機能を中止してください。

送信データ内でエラーがランダムに見られる。

可能であれば、V.42 もしくは MNP1-4 プロトコルを使ってみてください。

モデムのボーレートをいくらか下げてみてください。

ダウンロードしたファイルがコンピュータに保存されない。

どちらのモデムでも MNP か V.42 プロトコルを使用している場合は、フローコントロールが正しく設定されていない可能性があります。RTS/CTS フローコントロールが使用できるようにソフトウェアを設定してください。これで、ファイルがディスクに保存されるまでの間コンピュータを待機させることができます。

画面上の文字が読めない。

相手側のモデムソフトウェアの設定と、お使いのソフトウェア上の設定とが一致していない可能性があります。こちらのデータビット、ストップビットおよびパリティの設定を相手側のコンピュータの設定に合わせてください。以下に、よく使われる2つの設定を上げます。

1) データビット:8、パリティ:NO(なし)、ストップビット:1 (8, N, 1)

2) データビット:7、パリティ:EVEN(偶数)、ストップビット:1 (7, E, 1)

電話回線上にノイズが多い場合は、破損したデータが画面に表示される場合があります。

電話回線の状態が悪いため、モデムの通信速度が遅くなっている可能性があります。この場合は、ソフトウェア上のボーレートをモデムの実際の速度に合わせてください。モデムの通信速度をまた速く戻す場合は、いったん接続を切断しダイヤルし直してください。

V.42bis か MNP5 プロトコルを使用していると、モデムの機能のいくつかが使用できなくなる。

V.42bis または MNP5 プロトコル使用時に、ファイル転送用として Xmodem や Ymodem などの非ストリーミング(non-streaming) プロトコルが使用されている可能性があります。V.42bis または MNP5 プロトコルを使用する際は、Ymodem-G や Zmodem などのストリーミング・ファイル転送プロトコルをお使いください。

ソフトウェアで、ハードウェアによるフローコントロールが使用できるよう設定を行ってください(RTS/CTS ON)。

相手側のモデムに接続中、実際に使用している値より高いボーレートが表示される。

こちらのモデムが、CONNECT メッセージに対し、モデム-コンピュータ間のボーレート(DTE 速度)を表示するよう設定されている。可能性があります。コマンドモードに移り、ATW2 と入力してください。これで、モデムはモデム-モデム間のボーレート(DCE スピード/回線速度)を表示するようになります。

付録B  
仕様

規格	: USB Spec1.0
電源供給	: USB ケーブルからのバス電源
USB コネクタ	: USB タイプ B プラグ
モジュラコネクタ	: RJ-11 タイプ × 2
通信速度	: 56000、33600、28800、26400、24000、 21600、19200、16800、14400、12000、 9600、7200、4800、2400、1200、300 bps
データ規格	: V.90、K56flex、V.34+、V.34、V.32bis、 V.32、V.22bis、V.23、V.22/Bell 212A、 V.21/Bell 103
FAX 規格	: G3、EIA Class1、V.17、V.29、V.27ter、 V.21 Channel 2
エラー訂正	: V.42 および MNP2-4 準拠
データ圧縮	: V.42bis および MNP5 準拠
コマンド	: ヘイズ互換拡張 AT コマンドセット、FAX Service クラス 1 コマンド
稼働温度	: 0 ~ 40
湿度	: 35 ~ 85% (結露しないこと)
素材	: プラスチック
消費電力	: 950mW
外形寸法	: 96mm × 62mm × 20mm
重量	: 60g
EMI	: FCC Class B、CE
JATE 認定番号	: A99-0134JP

付録C  
AT コマンド一覧

## 基本 AT コマンド一覧

コマンド	オプション	機能説明
A/		直前に実行されたコマンドの再実行
<すべての キー>		ハンドシェーキング中に入力すると接続 を切断
<以下のコマンドはすべて最初に「AT」と付けて実行します>		
A		着信し、呼び出し音を待たずに接続を開 始する
Bn	B0 B1 * B2  B3  B15 B16	通信規格の選択 V.22 (1200bps 接続) Bell 212A (1200bps 接続) V.23 受信:1200bps、送信(発信モード): 75bps 受信:75bps、送信(着信モー ド):1200bps V.23 受信:75bps、送信(発信モード): 1200bps
Dn		受信:1200bps、送信(着信モード):75bps V.21 (300bps 接続) Bell 103 (300bps 接続)

## USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
<以下の「n」ストリング(電話番号および修飾子)は「D」コマンドの後に入力>		
	L	最後にダイアルした番号を再ダイアル
	ATD	ATDのすぐ後に入力しないと無効
	P	パルス(ダイアル式)に変更
	R	リバースダイアル;着信モード中に発信
	S=n	(着信モード中にオンラインモードに移行)
	T	不揮発性メモリ上のアドレス「n」に保存されている電話番号をダイアル(n=0、1、2、3)
	W	DTMF トーン(プッシュ式)に変更
	,	第2ダイアルトーン検出;モデムは2回目のダイアルトーンを検出するまでダイアルストリングの処理を延期
	!	ダイアルストリング中の次の文字に移動
	@	する前にS8レジスタで指定した時間分だけ処理をポーズ
	;	0.5秒間のみオンフック状態にする
		番号をダイアルした後、5秒間の無音を検出
En		ダイアル終了後、コールを切断せずにコマンドモードに移行
	E0	コマンドエコーの設定
	E1*	

## USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
Hn		スイッチフック(回線接続)の制御
	H0*	モデム-オンフック
	H1	モデム-オフフック
Mn		スピーカの制御
	M0	スピーカ常時オフ
	M1*	キャリア検出までスピーカオン
	M2	スピーカ常時オン
	M3	ダイアル中はスピーカオフ、キャリア検出までスピーカオン
Nn		ネゴシエート・ハンドシェイクの選択
	N0	発信または着信中は、S37レジスタおよび「ATBn」コマンドで指定する通信速度でのみハンドシェイクを行う、通信速度のフォールバックは不可
	N1*	発信または着信中は、S37レジスタおよび「ATBn」コマンドで指定する通信速度でのみハンドシェイクを開始する、通信速度のフォールバックは可能
On		オンラインモードへ移行
	O0	以前確立した状態に移行する(データモードへ移行)
	O1	リトレインシーケンス開始後オンラインモードに復帰

## USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
	O3	通信速度を再設定後オンラインモードに復帰
P		パルス(ダイヤル)信号に設定
Qn		リザルトコード表示設定
	Q0*	リザルトコードあり
	Q1	リザルトコードなし
T		トーン(プッシュ)信号に設定
Vn		リザルトコードの表示方法を設定
	V0	リザルトコードを数字で表示(リザルトコード・オプション一覧も参照)
	V1*	リザルトコードをテキストで表示
Wn		拡張リザルトオプションの選択
	W0*	CONNECT リザルトコードは DTE 速度を表示プロトコル・リザルトコードは表示しない(リザルトコード・オプション一覧も参照)
	W1	CONNECT リザルトコードは DTE 速度を表示プロトコル・リザルトコードは表示する
	W2	CONNECT リザルトコードは DCE 速度を表示プロトコル・リザルトコードは表示する
Xn		リザルトコード/コール表示内容の選択
	X0	全通信速度に対し「CONNECT」または「1」と表示、BUSY/ダイヤルトーン検出なし

## USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
	X1	「CONNECT」メッセージと通信速度を表示、エラー訂正およびデータ圧縮を表示、BUSY/ダイヤルトーン検出なし
	X2	「CONNECT」メッセージと通信速度を表示、エラー訂正およびデータ圧縮を表示、ダイヤル前にダイヤルトーンを検出、BUSY トーン検出なし
	X3	「CONNECT」メッセージと通信速度を表示、エラー訂正およびデータ圧縮を表示、ダイヤル前にダイヤルトーンを検出しない、ダイヤル後に BUSY トーンを検出
	X4*	「CONNECT」メッセージと通信速度を表示、エラー訂正およびデータ圧縮を表示、BUSY/ダイヤルトーン検出あり
	X5	X4 と同じ
	X6	X4 と同じ
	X7	全通信速度に対し「CONNECT」または「1」と表示、BUSY/ダイヤルトーン検出あり
Zn		保存済プロファイルを呼び出す
	Z0, Z1	リセット後ユーザープロファイル 0 を呼び出す

\* ... 製造元デフォルト



USB 56K FAX / MODEM

拡張「AT&」コマンド一覧

コマンド	オプション	機能説明
&Cn		データ・キャリア検出の設定
	&C0	相手モデムからのキャリア状態は無視、DCD回路は常時オン
	&C1*	相手モデムのキャリア信号検出時にDCDをオン、キャリア信号が検出されないとDCDをオフ
&Dn		DTR(Data Terminal Ready)設定
	&D0	DTRを無視
	&D1	通信中にDTR オン オフの場合コマンドモードに移行
	&D2*	通信中にDTR オン オフで回線切断、DTRが低い場合は自動着信を無効にする
	&D3	DTR オン オフで回線を切断しユーザープロフィール0で初期化
&F		現在の設定を工場出荷状態に初期化
&Gn		V.22bisガードトーン設定
	&G0*	ガードトーンなし
	&G1	550Hzガードトーン
	&G2	1800Hzガードトーン
&Kn		ローカル・フロー制御の設定
	&K0	フロー制御なし

USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
	&K3*	双方向ハードウェアフロー制御(CTS/RTS)あり
	&K4	双方向ハードウェアフロー制御(XON/XOFF)あり
&Pn		パルスダイヤルの設定
	&P0	20pps
	&P1	10pps
&Qn		非同期通信の設定
	&Q0	非同期モード、バッファあり(「AT¥N0」と同じ)
	&Q5*	エラー制御モード、バッファあり(「AT¥N3」と同じ)
	&Q8	MNPエラー制御モード。MNPエラー制御プロトコルが確立しない場合、S36レジスタの設定どおり通信速度を減速
	&Q9	V.42/MNPエラー制御モード。どちらのエラー制御プロトコルも確立されない場合、S36レジスタの設定どおり通信速度を減速
&Sn		DSR(Data Set Ready)の設定
	&S0*	DSR常時オン

USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
	&S1	ハンドシェイク時およびオンライン時 DSR オン、テストモードおよびアイドル 状態の時はオフ
&Tn		自己テストコマンド
	&T0	実行中のテストを終了
	&T1	ローカルアナログループバックテスト実行
	&T3	ローカルデジタルループバック(LDL)テ スト実行
	&T6	リモートデジタルループバックテスト実行
&V		実行中ファイルおよび保存済の電話番号 を参照
&W		現在の設定を不揮発性メモリに保存
&Y		保存されているプロファイルを電源投入 時に呼び出す
&Zn=x		電話番号を保存 n = 0 ~ 3 x = <string>; 1 スtringに最大 40 文 字まで入力可(ATDn コマンドの各オプシ ョンを参照)

\* ... 製造元デフォルト

USB 56K FAX / MODEM

拡張「AT¥」 コマンド一覧

コマンド	オプション	機能説明
¥Jn		一定 DTE 速度の設定
	¥J0 * ¥J1	DCE 速度と DTE 速度は互いに干渉しない 接続後 DTE インターフェース速度を DCE 接続速度(回線速度)に強制変更
¥Nn		エラー訂正機能の設定
	¥N0	バッファモード、エラー訂正なし(フロー 制御可能)
	¥N1	ダイレクトモード、エラー訂正なし(フロ ー制御不可)
	¥N2	MNP リライアブルモード、MNP2-4 エラ ー訂正が失敗すると回線を切断
	¥N3 *	V.42/MNP/バッファモード。V.42 で接続 を試み、失敗すると MNP で接続を試みる、 さらに失敗した場合はバッファモードで接 続
	¥N4	V.42 / 切断モード、V.42 で接続を試み、 失敗すると回線を切断
¥Qn		ローカルフロー制御の設定
	¥Q0 ¥Q1	フロー制御なし(AT&K0 コマンドと同じ) Xon/Xoff フロー制御(AT&K4 コマンド と同じ)

USB 56K FAX / MODEM

コマンド	オプション	機能説明
	¥Q3 *	RTS/CTSハードウェアフロー制御 (AT&K3 コマンドと同じ)
¥Tn	n=0 * n=1 ~	非アクティブタイマの設定(バッファモードのみ) 非アクティブタイマなし 非アクティブタイマあり (nは分)
¥Vn	255  ¥V0  ¥V1 *	プロトコル・リザルトコード DCE 速度の後にプロトコル・リザルトコードを表示しない DCE 速度の後にプロトコル・リザルトコードを表示する

\* ... 製造元デフォルト

USB 56K FAX / MODEM

拡張「AT%」コマンド一覧

コマンド	オプション	機能説明
%B		過去 3 分間の間にコールに失敗した電話番号のリストを表示
%Cn	%C0 %C1 *	データ圧縮機能の設定 圧縮なし V.42bis/MNP 5 データ圧縮を使用

\* ... 製造元デフォルト

拡張「AT-」コマンド一覧

コマンド	オプション	機能説明
-Cn	-C0 * -C1	データ呼び出しトーンの設定 データ呼び出しトーンなし データ呼び出しトーンあり

\* ... 製造元デフォルト

## Sレジスタ「ATSn=x」一覧

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
S0=	0-255	000	自動着信するまでの呼出回数を設定、 S0=0とすると自動着信を無効にします
S1=	0-255	000	呼出回数をカウントしその値を保存します 1回呼び出しされるたびにレジスタの 値は1つずつ増加します 呼出信号を8秒間受信しないとレジス タは0になります、値の読み取りはで きますが変更はできません
S2=	0-255	043	エスケープコードの設定 エスケープコードとして使用する文字 のアスキーコードを設定します。(10 進数) デフォルトの値(043)は、ASCII キャラクタ「+」を指しますエスケープ コードとして使用する文字のアスキー コードを設定します。(10進数) デフォ ルトの値(043)は、ASCIIキャラクタ 「+」を指します。 128から255までの値を設定すると、 エスケープ処理が無効となります(エ スケープコードを認識しません)。

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
S3=	0-127	013	CRコードの設定 コマンドラインおよびリザルトコード の最後に使用する、キャリッジリター ンコードを設定します(非同期モード でのみ有効)
S4=	0-127	010	LFコードの設定 ラインフィードの文字の値を10進数 で設定します ATV1 コマンド使用時は、ラインフィ ード制御キャラクタはキャリッジリタ ーン制御キャラクタの後に出力されま
S5=	0-32, 127	008	す BSコードの設定 バックスペースの文字の値を10進数 で設定します 32以上の値が設定されるとモデムは
S6=	4-65	004	そのバックスペース文字を認識しませ ん
S7=	30-59	050	オフフックからダイヤルまでの待ち時 間を秒で指定します キャリア待ち時間の設定 相手モデムからキャリアがない場合、何 秒待ってから切断するかを設定します

USB 56K FAX / MODEM

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
S8=	0-65	002	ダイヤルポーズ時間の設定 ダイヤルストリング内でダイヤルオプション", "を検出した際、ダイヤルを休止する時間を秒で設定します
S10=	1-255	020	キャリアが失われてから回線を切断するまでモデムが待機する時間を 1/10 秒単位で設定します
S11=	50 - 150	095	DTMF 信号の送出時間を 1/100 秒単位で設定します
S12=	0-255	050	連続した 2 つのエスケープコード("+") 間で、エスケープシーケンスを有効と見なす最大時間を 1/200 秒で設定します。
S28=	0-255	001	V.34 変調設定 0:なし
S30=	0-90	000	1-255:あり 非活動タイマの設定 DTE シリアルポート上でデータの送受信がないとき、回線を切断するまで待機する時間を分で設定します 設定された時間が経過すると接続を切断します S30=0 とすると非活動タイマは無効に

USB 56K FAX / MODEM

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
S36=		007	ネゴシエーション・フォールバック設定 0,2: ハングアップ 1,3: 非同期接続にフォールバック 4,6: MNP モードを試行、失敗するとハングアップ 5,7: MNP モードを試行、失敗すると非同期接続にフォールバック
S37=		000	DCE 速度(回線速度)の設定 0:モデムの最大速度 2:1200/75bps接続 3:300bps接続 5:1200bps接続 6:2400bps接続 7:4800bps接続 8:7200bps接続 9:9600bps接続 10:12000bps接続 11:14400bps接続 12:16800bps接続 13:19200bps接続 14:21600bps接続 15:24000bps接続 16:26400bps接続

USB 56K FAX / MODEM

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
			17:28800bps 接続 18:31200bps 接続 19:33600bps 接続
S38=		001	K56flex モードでの受信速度 0:K56flex 無効 1:自動設定 2:32000bps 3:34000bps 4:36000bps 5:38000bps 6:40000bps 7:42000bps 8:44000bps 9:46000bps 10:48000bps 11:50000bps 12:52000bps 13:54000bps 14:56000bps
S38=		001	V.90 モードでの受信速度 0:V.90 無効 1:自動設定 2:28800bps

USB 56K FAX / MODEM

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
			3:29333bps 4:30666bps 5:32000bps 6:33333bps 7:34666bps 8:36000bps 9:37333bps 10:38666bps 11:40000bps 12:41333bps 13:42666bps 14:44000bps 15:45333bps 16:46666bps 17:48000bps 18:49333bps 19:50666bps 20:52000bps 21:53333bps 22:54666bps 23:56000bps

USB 56K FAX / MODEM

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
S48=	7,128		LAPM エラー制御・ネゴシエーション の設定 S48=7:ネゴシエーションあり S48=128:ネゴシエーションなし、 S36 レジスタで設定したフォールバッ ク設定に強制的に変更 S36=0 か 2 で、S48=7 の場合:LAPM または切断 S36=0 か 2 で、S48=128 の場合:使用 不可 S36=1 か 3 で、S48=7 の場合:LAPM ま たは非同期 S36=1 か 3 で、S48=128 の場合:非同 期 S36=4 か 6 で、S48=7 の場合:LAPM、 MNPまたは切断 S36=4 か 6 で、S48=128 の場合:MNP または切断 S36=5 か 7 で、S48=7 の場合:LAPM、 MNPまたは非同期 S36=5 か 7 で、S48=128 の場合:MNP または切断

57

USB 56K FAX / MODEM

レジスタ	設定値	初期値	機能説明
S89=	0 5-60	030	スリープモード制御タイマの設定 モデムが待機モードに入る前に、オフ ラインコマンドモードで非活動状態 (DTE から信号を送らない、呼出しな し)になる時間を秒で設定します 0 を設定すると待機(スタンバイ)モー ドを無効にします 1 ~ 4 までの値は自動的に 5 に変更さ れます
S91=	6-15	015	送信レベルの設定 レベル範囲: -6dBm ~ -15dBm 初期値: -15dBm

58

付録D  
リザルトコード一覧

リザルトコード一覧表

ATV	ATV1	X0	X1	X2	X3	X4	X7
0	OK						
0	CONNECT						
1	RING						
2	NO CARRIER						
3	ERROR						
4	CONNECT 1200 EC*	@	@	@	@		
5	NO DIAL TONE						
6	BUSY						
7	NO ANSWER						
8	CONNECT 2400 EC*	@	@	@	@		
10	CONNECT 4800 EC*	@	@	@	@		
11	CONNECT 9600 EC*	@	@	@	@		
12	CONNECT 14400 EC*	#	#	#	#		
13	CONNECT 19200 EC*	@	@	@	@		
14	CONNECT 57600 EC*	%	%	%	%		
18	CONNECT 7200 EC*	#	#	#	#		
24	CONNECT 12000 EC*	#	#	#	#		
25	CONNECT 38400 EC*	%	%	%	%		
28	CONNECT 300 EC*		@	@	@	@	
40	CONNECT 21600 EC*	#	#	#	#	#	#
55	CONNECT 24000 EC*	#	#	#	#	#	#

ATV	ATV1	X0	X1	X2	X3	X4	X7
0	CONNECT 26400 EC*	#	#	#	#		
57	CONNECT 28800 EC*	#	#	#	#		
58	CONNECT 31200 EC*	#	#	#	#		
59	CONNECT 33600 EC*	#	#	#	#		
60	CONNECT 32000 EC*	#	#	#	#		
70	CONNECT 34000 EC*	#	#	#	#		
71	CONNECT 36000 EC*	#	#	#	#		
72	CONNECT 38000 EC*	#	#	#	#		
73	CONNECT 40000 EC*	#	#	#	#		
74	CONNECT 42000 EC*	#	#	#	#		
75	CONNECT 44000 EC*	#	#	#	#		
76	CONNECT 46000 EC*	#	#	#	#		
77	CONNECT 48000 EC*	#	#	#	#		
78	CONNECT 50000 EC*	#	#	#	#		
79	CONNECT 52000 EC*	#	#	#	#		
80	CONNECT 54000 EC*	#	#	#	#		
81	CONNECT 56000 EC*	#	#	#	#		
82	CONNECT 16800 EC*	#	#	#	#		
86	CONNECT 115200	%	%	%	%		
87	EC*		#	#	#	#	
100	CONNECT 28000		#	#	#	#	
101	CONNECT 29333		#	#	#	#	
102	CONNECT 30666		#	#	#	#	



USB 56K FAX / MODEM

ATV	ATV1	X0	X1	X2	X3	X4	X7
0	CONNECT 34666		#	#	#	#	
104	CONNECT 37333		#	#	#	#	
105	CONNECT 38666		#	#	#	#	
106	CONNECT 41333		#	#	#	#	
107	CONNECT 42666		#	#	#	#	
108	CONNECT 45333		#	#	#	#	
109	CONNECT 46666		#	#	#	#	
110	CONNECT 49333		#	#	#	#	
111	CONNECT 50666		#	#	#	#	
112	CONNECT 53333		#	#	#	#	
113	CONNECT 54666		#	#	#	#	

付録D

- @ DTE/DCE 速度
- # DCE 速度(回線速度)
- % DTE 速度
- \* 「EC」は、拡張リザルトコード(ERC)有効時のみ表示

USB 56K FAX / MODEM

拡張リザルトコード一覧表

ATV	ATV1	W0	W1	W2	W2≠V0
0	CONNECT 1200				
5	CONNECT 1200 EC*				
5	CONNECT 2400				
10	CONNECT 2400 EC*				
10	CONNECT 4800				
11	CONNECT 4800 EC*				
11	CONNECT 9600				
12	CONNECT 9600 EC*				
12	CONNECT 14400				
13	CONNECT 14400 EC*				
13	CONNECT 19200				
14	CONNECT 19200 EC*				
14	CONNECT 57600				
18	CONNECT 57600 EC*				
18	CONNECT 7200				
24	CONNECT 7200 EC*				
24	CONNECT 12000				
25	CONNECT 12000 EC*				
25	CONNECT 38400				
28	CONNECT 38400 EC*				
28	CONNECT 300				

付録D

## USB 56K FAX / MODEM

ATV	ATV1	W0	W1	W2	W2≠V0
0	CONNECT 300 EC*				
40	CONNECT 21600				
55	CONNECT 21600 EC*				
55	CONNECT 24000				
56	CONNECT 24000 EC*				
56	CONNECT 26400				
57	CONNECT 26400 EC*				
57	CONNECT 28800				
58	CONNECT 28800 EC*				
58	CONNECT 31200				
59	CONNECT 31200 EC*				
59	CONNECT 33600				
60	CONNECT 33600 EC*				
60	CONNECT 32000				
70	CONNECT 32000 EC*				
70	CONNECT 34000				
71	CONNECT 34000 EC*				
71	CONNECT 36000				
72	CONNECT 36000 EC*				
72	CONNECT 38000				
73	CONNECT 38000 EC*				
73	CONNECT 40000				
74	CONNECT 40000 EC*				

## USB 56K FAX / MODEM

ATV	ATV1	W0	W1	W2	W2≠V0
0	CONNECT 42000				
75	CONNECT 42000 EC*				
75	CONNECT 44000				
76	CONNECT 44000 EC*				
76	CONNECT 46000				
77	CONNECT 46000 EC*				
77	CONNECT 48000				
78	CONNECT 48000 EC*				
78	CONNECT 50000				
79	CONNECT 50000 EC*				
79	CONNECT 52000				
80	CONNECT 52000 EC*				
80	CONNECT 54000				
81	CONNECT 54000 EC*				
81	CONNECT 56000				
82	CONNECT 56000 EC*				
82	CONNECT 16800				
86	CONNECT 16800 EC*				
86	CONNECT 115200				
87	CONNECT 115200				
87	EC*				

## USB 56K FAX / MODEM

\* 上記の「EC」には以下のいずれかのシンボルが入ります。

V.42bis	V.42 エラー制御および V.42bis データ圧縮
V.42	V.42 エラー制御のみ
MNP 5	MNP 4 エラー制御および MNP 5 データ圧縮
MNP 4	MNP 4 エラー制御のみ
No EC	エラー制御、データ圧縮どちらもなし

付  
録  
D

技術的なご質問、バージョンアップ等のお問い合わせは  
お気軽に下記へご連絡ください。

なお「ユーザー登録はがき」をご返送またはホームページにて  
ユーザー登録をおこなっていただいていない場合には、  
一切サポートは受けられませんのでご注意ください。

フリーダイヤル：0120-415977

FAX：03-3256-9207

受付時間

月曜日～金曜日(祭日は除く)

10:00～12:00・13:00～17:00

ご質問の受付やドライバのアップデートを  
下記 www サーバで行なっておりますのでご利用ください。

<http://www.planex.co.jp/>

E-MAIL: [info-planex@planex.co.jp](mailto:info-planex@planex.co.jp)

**プラネックスコミュニケーションズ株式会社**

© Copyright 1999 PLANEX COMMUNICATIONS INC. All rights reserved.

**プラネックスコミュニケーションズ株式会社**

## 保 証 規 定

この製品は、厳密な検査に合格したものです。保証期間内に、お客様の正常なご使用状態の元で万一故障した場合には、本保証規定に従い無償で修理をさせていただきます。

ご購入後 1 ヶ月以内に発生した故障については初期不良交換対象となります。1 ヶ月を過ぎた場合は修理扱いとさせていただきますのでご了承ください。なお、弊社はセンドバック方式をとらせていただいております。

故障の場合には、製品をお客様送料ご負担にて郵送していただき、弊社まで修理をご依頼ください。

ただし、次のような場合には保証期間内においても、有償修理となります。

1. ユーザー登録を行っていない場合
2. 購入日が明記されていない場合
3. 取扱上の誤りによる故障及び損傷、不当な修理や改造などをされた場合
4. お買い上げ後の移動、落下または郵送などにより故障、損傷が生じた場合
5. 火災、天災、地変、ガス害、または異常電圧により故障、損傷が生じた場合

保証書は、日本国内においてのみ有効です。

保証期間は、製品お買い上げ日より算定いたします。

保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

**プラネックスコミュニケーションズ株式会社**

## 保 証 書

弊社の保証規定を必ずご覧ください。

保証期間 Warranty	西暦 年 月 日より 1 年間
製品名	USB 56K FAX/MODEM
型番 Product No.	UMD-56J
製造番号 Serial No.	

個人使用 法人使用（チェックしてください。） 個人でご使用の場合には、個人名、および住所以降の欄にのみご記入ください。	
フリガナ	
会社名 （個人名）	
部課名	
フリガナ	
担当者名	
フリガナ	
住 所	<div>□□□-□□□□ 都 府 道 県</div>
電 話	— — 内線
F A X	— —
E-MAIL	

購入店名 所在地	
-------------	--

**プラネックスコミュニケーションズ株式会社**

## ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ホームページ上でユーザー登録を行って戴いたお客様には抽選でプレゼントを差し上げております。ぜひホームページ上のユーザー登録をご利用くださいますようお願いいたします。

<http://www.planex.co.jp/>

インターネットをご使用になれないお客様は、本マニュアル最終ページのユーザー登録はがきをご使用ください。切り取って必要事項をご記入の上、弊社宛にご返送ください。インターネット上でユーザー登録をされたお客様は、ユーザー登録はがきをご返送いただく必要はありません。

## ユーザー登録書の記入方法

ユーザー登録書をご記入いただく場合には、以下の事項を参考にしてください。

“製造番号”には、パッケージ側面に貼られているバーコードシールの“S/N”または商品裏側に記されている内容をご記入ください。

ユーザー登録書の表面の使用環境を忘れずに必ずご記入ください。サポート時の参考情報とさせていただきます。

## プラネックスコミュニケーションズ株式会社

郵便はがき

101-0041

お手数ですが  
切手を貼り  
ポストに  
ご投函下さい。

東京都千代田区神田須田町 1-7  
ウイン神田高橋ビル 5F

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

『テクニカル・サポート担当』 行

ご使用になっている環境をお知らせください。

使用 ネットワーク OS	
使用 OS	
使用機種	

ユーザー登録書

( プラネックスコミュニケーションズ 控 )

購入日	西暦            年            月            日
製品名	USB 56K FAX/MODEM
型番 <small>Product No.</small>	UMD-56J
製造番号 <small>Serial No.</small>	

個人使用      法人使用 ( チェックしてください。 ) <small>個人でご使用の場合には、個人名、および住所以降の欄にのみご記入ください。</small>	
フリガナ	
会社名 ( 個人名 )	
部課名	
フリガナ	
担当者名	
フリガナ	
住 所	<div>□□□-□□□□ 都 府 道 県</div>
電 話	—                      —                      内線
F A X	—                      —
E-MAIL	

購入店名 所在地	
-------------	--

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

切り取り線